



保護者・地域みなさま、本校の学校教育にいつもご理解とご協力ありがとうございます。
後期に実施した(児童・保護者・教職員)アンケートの集計と分析結果をお知らせいたします。



1	進んでたくさんの人にあいさつをしていますか？	7	朝ごはんでは、ごはんやパンだけでなく、おかずも食べていますか？
2	しっかりと返事ができていますか？	8	忘れ物をしないように学習の準備ができていますか？
3	人の話を最後までしっかりと聞くことができますか？	9	毎日、家庭学習ができていますか？(目安の時間は、15分×学年です)
4	自分の思いを相手に伝えるようにしっかりと話すことができますか？	10	家で毎日、読書をしていますか？
5	早寝はできていますか？	11	朝は集団登校のルールを守りながら来て、帰りは通学路を安全に帰っていますか？
6	早起きはできていますか？	12	交通ルールを守り、安全な自転車の乗り方や歩き方ができていますか？



☆ 設問11「朝は集団登校のルールを守りながら来て、帰りは通学路を安全に帰っていますか？」、設問12「交通ルールを守り、安全な自転車の乗り方や歩き方ができていますか？」は、「はい」「だいたい」の2つを合わせると、非常に高いパーセンテージを占めています。安全に登下校するといった子どもたちの意識の高さといつも見守ってくださる地域・保護者の方々の気持ちを受けとめて行動している結果だと思われます。見守り隊の方々の活動、そして地域委員を中心とした保護者の方々の活動などこれからもどうぞよろしくお願いいたします。

☆ 設問5「早寝はできていますか？」と設問10「家で毎日、読書をしていますか？」では、「はい」と答えた児童が約30%でした。健康な体づくりの基本となる早寝があまりできていないという実態が把握できました。家庭にも働きかけ、成長のためにも睡眠の必要性を理解してもらうことが大切であると考えます。また、読書習慣を身につけることの大切さや読書の意義について学校として働きかけるとともに児童自らが本に親しむ機会をもてるように家庭との連携を図ることの大切さについて示唆する結果となりました。

☆ 設問11「朝は集団登校のルールを守りながら来て、帰りは通学路を安全に帰っていますか？」が最も高い評価となり、設問12「交通ルールを守り、安全な自転車の乗り方や歩き方ができていますか？」が2番目に高い評価でした。
集団登校・下校については、見守り隊の皆様や地域委員様をはじめ、ご家庭や地域で子どもたちの様子をしっかりと見ていただいている証であると思います。いつもありがとうございます。

☆ 設問10「家で毎日、読書をしていますか？」では、子どもたち、教職員の評価に比べ保護者の評価が低いという結果でした。
読書を通して培われる想像力や論理的に考える力は、未来を生きる子どもたちにとって不可欠な力です。ボランティアの方による図書室の環境整備と読み聞かせ活動を継続することや、地域にある山科図書館と積極的な連携を図り、読書活動に力を入れたいと思います。また、朝読書の充実や各教室の学級文庫の見直しなども行い、子どもたちの読書の習慣をさらに高めていけるよう取組を進めたいと考えています。
学校教育がよりよくなり、児童の健全な成長を願う保護者の皆様の思いを理解し本校の教育に努めてまいります。これからもご支援よろしくお願いたします。

☆ 設問6「早起きはできていますか？」という設問に、「はい」と答えた教職員の割合は約42%でした。子どもたちの様子や話から得た情報でそのように回答したと考えられる。保護者の割合ともほぼ同じ結果です。

☆ 設問3の「人の話を最後までしっかりと聞くことができますか？」設問4「自分の思いを相手に伝えるようにしっかりと話すことができますか？」設問10「家で毎日、読書をしていますか？」の3つの設問に共通して言えることは、「もうすこし」の割合が約40%を占めていることです。落ち着いて人の話を聞くことができる力は、生涯にわたって役立つ大切な力であるとともに、自分の思いを相手に伝えるようにしっかりと話すこともコミュニケーションを図るための重要な手段として挙げられます。教職員が一丸となり、教育活動を通して、子どもたちに両方の力を育むことに努める必要性について共通理解しました。

☆ 保護者の方の評価と教職員の評価の差については、家庭と学校における子どもたちの様子が異なっていることや、子どもを見る視点の違いによるものであると考えられます。子どもたちの成長や教育の在り方について、これからもなお一層連携を密にして進めて参りたいと考えます。ご理解とご協力よろしくお願いたします。

音羽小学校は、市民ぐるみ・地域ぐるみの教育の核としての学校をめざしています

京都市では、今日に至る教育改革の柱として、徹底して「開かれた学校づくり」を推進してきました。これは、学校と家庭・地域との相互の信頼と協働の関係を構築する基盤となっています。今後も、保護者・地域の方々に参画いただき、市民ぐるみ・地域ぐるみの教育を展開していきます。変化の激しい現代社会において、子どもたちが夢と希望をもって未来を切り拓いていけるよう、「生きる力」を育み、社会全体で子どもたちの教育に取り組んでいくことが大切です。子どもたちの豊かな学びと育ちのために、なおいっそうのご理解・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

特集 学校評価 (2)

～学校アンケートの結果～

後期(保護者・教職員)アンケートから見てきたことをまとめました。

アンケート項目	
1	学校からの配布物や学校ホームページを通して、学校の様子が伝わっていますか？
2	学校は、一人一人の子どもたちが大切にされた教育が行えていますか？
3	学校は、子どもたちの安全が守られる教育が行えていますか？
4	学校に、お子さんの教育で困ったときや相談したいときに何でも話せる教職員がいますか？
5	学校は、子どもたちにとって分かりやすい授業が展開できていますか？



保護者アンケート

☆どの項目も約90%『はい・だいたいできています』という評価でした。
 ☆設問3に関しては、『はい』が55%と高い評価になりました。
 ☆設問4の「学校にお子さんの教育で困ったときや相談したいときに何でも話せる教職員がいますか？」では「もう少し」と答えた方が約10%ほどいました。

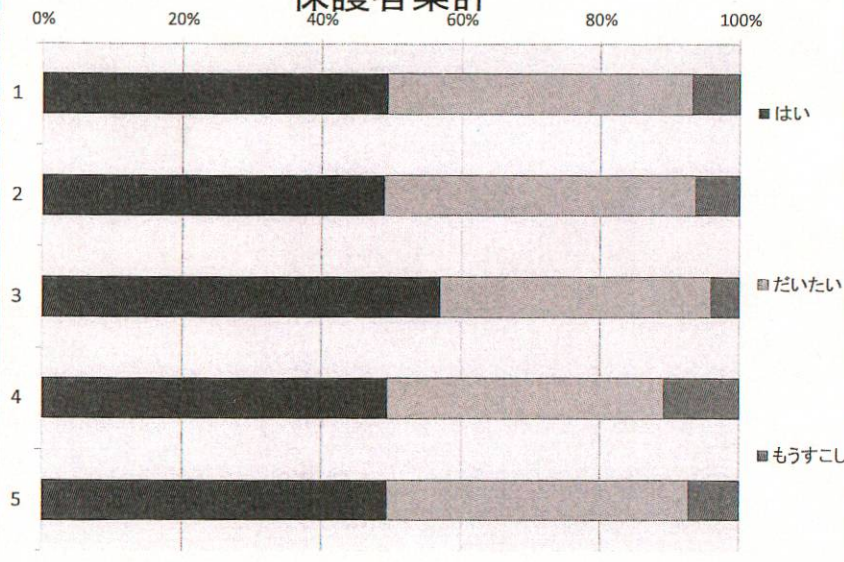
アンケートをもとに

お気づきになられたことや伝えたいことなど些細なことでも、担任や教職員にお話し頂くとともに、授業参観後の懇談会、長期休みの前に実施している個人懇談会、スクールカウンセラーなどをご活用いただき、『開かれた学校・悩みを共有できる教職員』をめざします。

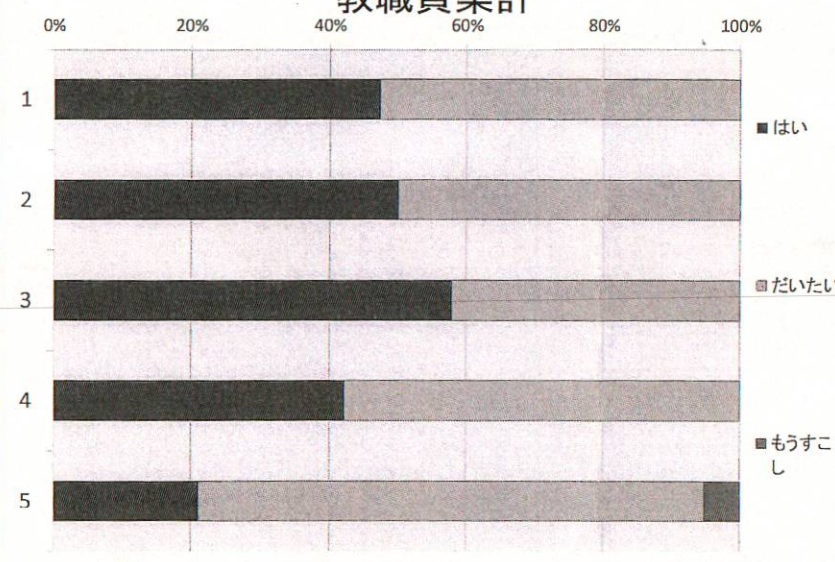
教職員アンケート

☆設問1・2で、「はい」と答えた教職員の割合は約50%でした。
 ☆設問3では、保護者の方とほぼ同じ結果が見られました。
 ☆設問5については、「もう少し」と答えた教職員がおります。
 日々の教材研究に励み、授業で勝負できる教員を目指し、子どもたちにとって『わかる授業』を行いたいと思います。保護者の方から「もう少し」というご回答をいただいていることに関しましては、今回の学校評価をもとに、今一度自分の教育活動を見直し、一人一人の子どもたちが大切にされた教育を実践することで、ご理解いただけるように努めてまいります。

保護者集計



教職員集計



後期(地域)アンケートから見てきたことをまとめました。

アンケート項目	
1	子どもたちからあいさつをしていますか？
2	子どもたちは、登下校時や放課後、休日に交通ルールを守り、安全に過ごすことができますか？
3	子どもたちは、進んで地域行事に参加していますか？
4	学校教育のねらいが伝わっていますか？
5	学校だより・学校ホームページ等を通して、学校の様子が伝わっていますか？
6	教職員は、率先して地域の方にあいさつをしていますか？
7	学校は、安心・安全な場所になっていると思いますか？
8	学校は、環境整備や美化活動に取り組んでいますか？
9	学校が中心となって、地域・PTAと連携が取れていますか？
10	学校は、地域を大事にし、地域の方が学校の行事に参加しやすい取組ができていますか？

いただいたご意見

- ・ 自転車のマナー、ルールの指導を。
- ・ 大人も子どももあいさつを。特に大人からの声かけが大切である。
- ・ 朝の交通整理ご苦労さまです。
- ・ 学区外のボランティアですが、学校の行事や児童の様子が学校だよりなどからよくわかります。
- ・ 学校だよりや学校HPを楽しみにしています。
- ・ 登下校時の安全指導が大事である。
- ・ 子どもたちが元気に楽しく安全に6年間学校生活を送ることが望みます。そのために学校、地域がひとつになって育てたい。

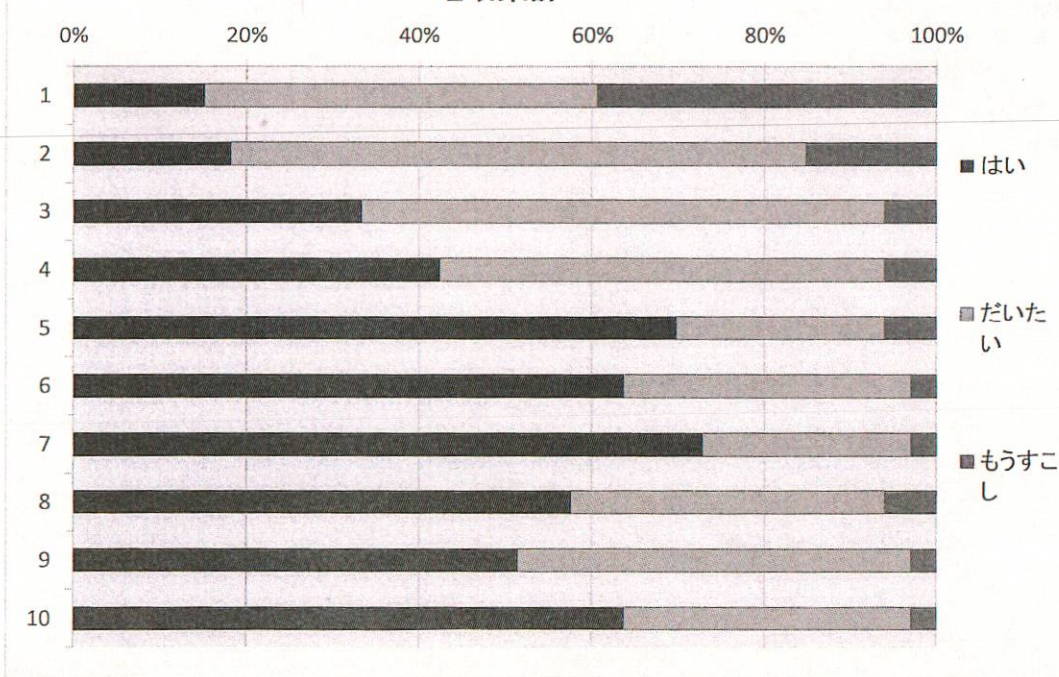


安全・安心な学校を目指して…

- ① 北門のインターフォン設置
- ② 敷地内での事故防止のため、車止めのチェーン設置
- ③ 正門付近のLED照明
- ④ 校内の環境整備
- ⑤ 木の剪定

今後も、安心・安全な学校づくりに努め、保護者や地域の皆様と共に育む音羽小学校を目指していきたいと思ひます。

地域集計



つながる！地域～家庭～学校

学校評価を
ふりかえって

～後期学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました～
 音羽小学校の教育が地域の皆様・保護者の皆様のご理解と温かな見守りに支えられております。
 学校教育目標『一人一人が輝く学校』～すすんで(勇)なかまど(仁)学ぶおとわっ子 よりよく(智)生きる～の具現化をめざし、今後も取組を進めて参りたいと思ひます。
 これからも、ご理解・ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。